1 単元名 日本 の 諸 地 域－ 関 東 地 方－

2 本単元の目標

- (1) 地域の道路や鉄道、航路や航空路、通信網などの交通や通信に関する特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解することができるようにする。 (知識及び技能)
- (2) 関東地方において、交通や通信に関する特色ある事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) 関東地方に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を育てる。 (学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知①地域の道路や鉄道、航路や航空路、通信網などの交通や通信に関する特色ある事象と、それに関連する他の事象やそこで生ずる課題を理解している。	思①関東地方において、交通や通信に関する特色ある事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し表現している。	態①関東地方に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本単元は、地理的分野の内容C「日本の様々な地域」の中項目「日本の諸地域」を受けて設定した。ここでは、関東地方の特色について、交通や通信に関する特色ある事象を中核として、産業や人口、都市・村落などに関する事象と有機的に関連付けて、多面的・多角的に考察し、理解することをねらいとしている。そこで、「関東地方」の学習においては、まず、人口や都市機能の集中に着目できるようにし、交通や通信との関連性を探しながら思考力を高めていけるように単元を構成する。

(2) 生徒観

本学級の生徒に対して、「日本の諸地域－九州地方－」の学習後に社会的事象の概念に基づいた理解力をみる実態調査（令和3年*月*日実施、第8学年*組*人）を行なった。そのうち、「自然環境や公害の影響が大きい九州地方で、産業が発展してきたのはなぜか」の設問に対し、自然環境を中核とした視点で記述できた生徒が*人、そのうち、二つ以上の地理的事象を関連付けて記述できた生徒が*人、関連付けていない記述、知識を組み合わせた記述、無回答の生徒が*人であった。これらのことから、本学級の生徒は、地理的事象について概念を基に十分に考察し、相互に関連付けて考える力に課題があることが分かった。

(3) 指導観

本単元では、生徒に概念を基に考察する力を育てるために、二つの点からの手立てを行う。まず、導入において、交通や通信を中核とした考察の視点をもつための問いを見いだせるようにし、授業においても個別の問いを見いだせるようにするための学習活動を設定する。資料を読み取り考えたことを「わかること」、「疑問」、「予想」の3種類の付箋に分類して記入できるようにする。次に、授業ごとの課題に迫るため、デジタルホワイトボードを用いた協働学習を行い、互いの見方・考え方を働かせて様々な視点から考察を深められるようにする。交通や通信を中核とした視点から、生徒が自ら対話を重ね、関東地方を捉える概念を再構築していくことで、思考を広げたり深めたりすることができるようになることを考える。これらの学習活動の工夫を通して、概念を基に考察する力を育てていきたい。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
5	1	<p>1 関東地方に関する資料を見て、地理的事象を見いだす。</p> <p>2 意見を全体で共有し、関東地方の特色ある事象について捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有した視点を基に資料を見直して事象を捉え直す。 <p>3 関東地方の特色ある事象について課題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>関東地方にはなぜ人口が集まっているのか。</p> </div> <p>4 資料を基に、個人で探究する。</p> <p>5 意見をグループで共有し、全体で共有して関東地方の特色ある事象について問いを見いだす。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>関東地方に人口が集まるのは、交通や情報が集まっているからではないか。</p> </div>	○			<p>知①：関東地方の特色ある地理的事象を見付けられているか見取り、見付けられていない生徒には「鳥の目虫の目シート」で視点のもち方を示して支援する。【ワークシート】</p> <p>○ 態①：活動内容に沿った探究ができているか見取り、できていない生徒には説明を補って支援する。【観察・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を貫く問いを全体で導き出し、次時からの活動への意欲をもてるようにする。
	2	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>関東地方の自然環境からどのようなことがわかるだろう。</p> </div> <p>2 三つの資料を個人で読み取り、問いの解決を構想しながら考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末上で資料を読み取り、考察する。 ・考察した内容をデジタルホワイトボード上の「鳥の目虫の目シート」に挙げていく。 <p>〈付箋の色〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと→黄色 ・予想したこと→緑色 ・疑問点 →青色 <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥の目虫の目シート」上で友達の考えに照らしながら、考察を広げていく。 <p>3 グループで「鳥の目虫の目シート」上の付箋を一つ一つ確認し合いながら、考察をまとめたり深めたりしていく。</p> <p>4 グループごとに考察を発表し、共有したことを参考にしてグループで考察を深める。</p> <p>5 各グループの考察をまとめホワイトボードで共有しながら、「わかること」と「疑問点」を明確にする。</p>		○		<ul style="list-style-type: none"> ・資料…関東の地勢図、雨温図、気温変化図 ・「地形」「気象」「人口」に分類できるようにする。 <p>思①：付箋を作成できているかについて見取り、できていない生徒には考えを表出できるようにするために細かな質問を繰り返す。【付箋カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの考えを、一つの付箋に短い言葉で記入するよう伝える。 ・個々の考えについて、聞き手は否定しないことを約束とする。 ・個々の考えの違いについて、十分に理解し合えるようにする。

	<p>6 「わかること」を基軸にして本時の学習内容を各自まとめるとともに、「疑問点」を次時の問いとして認識する。</p> <p>関東地方は周囲を山地に囲まれた広い平野をもち、河川や海岸も多く温暖なため、都市が広がるのに適している。</p>			
3	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <p>首都である東京の機能からどのようなことがわかるだろう。</p> <p>2 三つの資料を個人で読み取り、問いの解決を構想しながら考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末上で資料を読み取り、考察する。 ・考察した内容をデジタルホワイトボード上の「鳥の目虫の目シート」に挙げていく。 <p>〈付箋の色〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと→黄色 ・予想したこと→緑色 ・疑問点 →青色 <p>・「鳥の目虫の目シート」上で友達の考えに照らしながら、考察を広げていく。</p> <p>3 グループで「鳥の目虫の目シート」上の付箋について、一つ一つを確認し合いながら、考察をまとめたり深めたりしていく。</p> <p>4 グループごとに考察を発表し、共有したことを参考にして、グループで考察を深める。</p> <p>5 各グループの考察をまとめ、ホワイトボードで共有しながら、「わかること」と「疑問点」を明確にする。</p> <p>6 本時のまとめを記述する。</p> <p>関東地方には、首都・東京に集中する人口や中枢機能が分散しており、集中した交通網や情報網を利用して、東京と強く結び付いている。</p> <p>7 本時の振り返りをする。</p>	○	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に全体で見いだした問いをフィードバックして、本時の課題につなげる。 ・資料…東京の中枢機能と大使館の分布、項目ごとの東京への集中割合、東京の昼夜間人口・通勤通学者数 ・「中枢機能」「大消費地」「人口過密の対策」に分類できるようにする。 <p>・一つの考えを、一つの付箋に短い言葉で記入するよう伝える。</p> <p>思①：友達に自分の考えを説明できているかについて見取り、できていない生徒には説明の仕方を講じる。【付箋カード】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の考えについて、聞き手は否定しないことを約束とする。 ・個々の考えの違いについて、十分に理解し合えるようにする。 <p>知①：【観察・ワークシート】</p>
4	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <p>関東地方の工業から、どのようなことがわかるだろう。</p> <p>2 三つの資料を個人で読み取り、問いの解決を構想しながら考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥の目虫の目シート」上で友達の考えに照らしながら、考察を広げていく。 			<ul style="list-style-type: none"> ・前時に全体で見いだした問いをフィードバックして、本時の課題につなげる。 ・資料…関東地方の産業、都県別工業生産額と内訳、道路での輸送の流れ ・「東京湾の工業地帯」「その他の工業地域」「輸送」に分類できるよ

	<p>3 グループで「鳥の目虫の目シート」上の付箋について一つ一つを確認し合いながら、考察をまとめたり深めたりしていく。</p> <p>4 グループごとに考察を発表し、共有したことを参考にしてグループで考察を深める。</p> <p>5 各グループの考察をまとめ、ホワイトボードで共有しながら、「わかること」と「疑問点」を明確にする。</p> <p>6 本時のまとめを記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>内陸型の北関東工業地域が形成されたことで、関東地方はさらに高速道路や鉄道でつながり、大都市圏や貿易港、空港などに輸送しやすくなっている。</p> </div>		◎	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの考えを、一つの付箋に短い言葉で記入するよう伝える。 ・個々の考えについて、聞き手は否定しないことを約束とする。 ・個々の考えの違いについて、十分に理解し合えるようにする。 <p>思①：【観察・ワークシート】</p>
5	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>関東地方の農業や観光業からどのようなことがわかるだろう。</p> </div> <p>2 三つの資料を個人で読み取り、問いの解決を構想しながら考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥の目虫の目シート」上で友達の考えに照らしながら、考察を広げていく。 <p>3 グループで「鳥の目虫の目シート」上の付箋について、一つ一つを確認し合いながら、考察をまとめたり深めたりしていく。</p> <p>4 グループごとに考察を発表し、共有したことを参考にして、グループで考察を深める。</p> <p>5 各グループの考察をまとめ、ホワイトボードで共有しながら、「わかること」と「疑問点」を明確にする。</p> <p>6 本時のまとめを記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>関東地方では高速道路が広がることで、近郊農業や輸送園芸農業がさかんに行われ、都市向けの野菜が栽培されている。また、観光目的の往来がさかんである。</p> </div> <p>7 本時の振り返りをする。</p>		◎	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に全体で見いだした問いをフィードバックして、本時の課題につなげる。 ・資料…関東地方の産業、東京への入荷量、生産量の都道府県別割合 ・「農業」「観光業」に分類できるようにする。 ・一つの考えを、一つの付箋に短い言葉で記入するよう伝える。 ・個々の考えについて、聞き手は否定しないことを約束とする。 ・個々の考えの違いについて、十分に理解し合えるようにする。 <p>思①：【観察・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を通して「よかったこと」とその理由を捉えることができるようにし、次時の活動の改善につなげる。
⑥ 本時	<p>目標：関東地方の世界や日本各地との結びつきについて、資料の読み取りを基に、他者と話し合う活動を通して、交通や通信と関連付けて多角的に考察することができる。</p> <p>1 本時の課題を捉える。</p>			<ul style="list-style-type: none"> ・前時に全体で見いだした問いをフ

	<p>関東地方の世界や日本各地との結び付きから、どのようなことがわかるだろう。</p> <p>2 三つの資料を個人で読み取り、問いの解決を構想しながら考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット型端末上で資料を読み取り、考察する。 ・考察した内容をデジタルホワイトボード上の「鳥の目虫の目シート」に付箋として挙げていく。 <p>〈付箋の色〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかったこと→黄色 ・予想したこと→緑色 ・疑問点 →青色 <ul style="list-style-type: none"> ・「鳥の目虫の目シート」上で友達の考えに照らしながら、考察を広げていく。 <p>3 グループで「鳥の目虫の目シート」上の付箋について、一つ一つを確認し合いながら、考察をまとめたり深めたりしていく。</p> <p>4 グループごとに考察を発表し、共有したことを参考にしてグループで考察を深める。</p> <p>5 各グループの考察をまとめ、ホワイトボードで共有しながら、「わかること」と「疑問点」を明確にする。</p> <p>6 本時のまとめを記述する。</p> <div data-bbox="280 1570 796 1720" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>関東地方には、世界や日本各地とを結ぶ有数の貿易港があり、全国にのびる高速道路や鉄道を利用して、人や物の移動が活発に行われている。</p> </div> <p>7 本時の振り返りをする</p>			<p>ードバックして、本時の課題につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真資料をモニターに映す。 ・資料…成田空港の航空網、港湾別貿易額、都道府県別の在留外国人数 ・「日本各地との結び付き」「世界との結び付き」に分類できるようにする。 ・一つの考えを、一つの付箋に短い言葉で記入するよう伝える。 ・「わかりたくてもわからないこと」については、「疑問点」として「なぜ～なのか？」の問いの形で付箋に記入するよう伝える。 ・友達や他グループの付箋を参考にする際には、自分で理解するように伝える。 ・個々の考えについて、聞き手は否定しないことを約束とする。 ・個々の考えの違いについて、十分に理解し合えるようにする。 ・理解や考察の筋道を、シートに記入しながら思考過程が可視化できることを伝える。教科書で確認しながら、新出語句を書き込むよう促す。 ・関東地方から、と関東地方へ、の双方向で考えられるようにする。 ・「わかること」は、考察から獲得した概念としてまとめの枠組みに活用できるようにし、「疑問点」は問いとして次時の課題意識につなげる。 <p>◎ 思①：【観察・ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時を通して「よかったこと」とその理由を捉えることができるようにし、次時の活動の改善につなげる。
7	<p>1 本時の課題を捉える。</p> <div data-bbox="280 1805 796 1933" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>関東地方に人口が集まるのは、交通や情報が集まっているからではないか。</p> </div> <p>2 これまで学習した内容について確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班のつなげるシート5枚 			

	<p>3 関東地方の5つの側面（自然環境、中枢機能、工業、農業、世界や日本各地との結び付き）ごとに、交通や通信を中核とした考察を振り返る。</p> <p>4 復習した内容から、課題に対してグループごとに考察し、話し合いながら課題解決に迫る答えを見いだしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに記入し掲示する。 ・質問や疑問点があれば互いに確認する。 <p>5 全体でホワイトボード上の意見を基に考察しながら、課題解決に迫る答えを見だし、共有していく。</p> <p>6 単元を貫く問いに対するまとめを各自で記述する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>関東地方は、首都東京が世界や日本各地と結び付き、もの（情報）や人の出入り口になっていることから、交通網や情報網を中心に産業や国の中枢機能を分散させ、それを支える人々が集まっている地域である。</p> </div> <p>7 本時の振り返りをする。</p>		○ ◎	<p>態①：【観察・ワークシート】</p> <p>思①：考えをまとめたり関連付けたりしているかを見取り、関連付けることができていない生徒には、問いに着目するように促す。</p> <p style="text-align: center;">【観察・ワークシート】</p> <p>・本時を通して「よかったこと」とその理由を捉えることができるようにし、次時の活動の改善につなげる。</p>
--	---	--	-----	--